

町のわだい



今月の題字 芳賀

あんじゅ 杏朱さん（山田小5年）

織笠地区で小正月行事 名物「なごみ」家々を回る

怖い顔をした福の神が現れる。小正月行事として知られる「なごみ」が1月15日夜、織笠地区の家々を回りました。古き良き伝統を守り継ごうと教育振興運動織笠地区実践協議会(昆尚人会長)が毎年行っているもので、鬼の面をかぶり、みのを身につけた会員扮するなごみが「ピーパー」と呼ばれる竹製の笛を鳴らし、14世帯を訪問。「きがねーわらすはいねーが」と大暴れするなごみを前に、泣きながら「言うごときぎます」と父親にしがみつく子どもや、福の神として迎えるお年寄りなど、伝統行事に地域がにぎわいました。



山高生議員が「一般質問」 地域課題への提言相次ぐ

「議長」と手を挙げ、堂々と発言する高校生議員——。1月19日、山田高校(宮学^{まなぶ}校長、生徒112人)3年生49人による「ふるさと探究高校生議会」が役場議場で開かれました。同校の「ふるさと探究」授業の一環で行われたもので、生徒たちはテーマごとに取り組んだ校外調査の結果などを踏まえ、町議会と同じ形式で「一般質問」。質問者席からは「新しい道の駅は立地を生かした広場の活用を」「自治会などの役員のなり手不足の状況と対策は」などと、身近な地域課題への提言や質問が相次ぎ、町長はじめ町幹部職員を相手に熱い議論を交わしました。

地域ぐるみの「学び」実践へ 関係者が実現方策など議論

1月8日、町教育委員会主催の第3回山田町教育フォーラム「教育シンポジウム」が、町中央公民館で開かれ、町内の教職員など98人が参加しました。基調発表では、児童生徒の学力調査などの分析結果や子どもたちを巻き込み地域活動に取り組む「北っ子の会」(小野浩樹^{ひろ}会長)の活動事例などが報告され、パネルディスカッションでは、町が進める「やまだの学び」プロジェクトの活動指針が提起されました。参加者たちは時折メモを取るなどし、教育現場が直面する課題や町が目指す地域ぐるみの学びの実現方策に熱心に耳を傾けていました。

